



議 会

によどがわ

だより

2008.2
第10号



寺村地区で今年も元旦、恒例の「おなばれ」が地元
有志に帰省した人たちも加わり、無病息災を祈願し、
3kmを練り歩いた。

十二月定例会

国の施策に憤りを感じる…2P

田村公園は利用価値がない…4P

スクールバス事故

県警に異議申し立てを…11・12・15P

橋本議長、総務大臣表彰を受賞…16P

ここが聞きたいQ&A…18P



1月2日、「成人式」に44人（対象者54人）の新成人が出席した。（仁淀多目的研修集会施設）

高知県仁淀川町議会

TEL 0889 (35) 0111 / FAX (35) 0571 / 発行人: 議長 橋本真一 / 編集: 議会だより特別委員会 / 印刷: 資佐川印刷所

一 般 質 問

全議員が登壇

平成19年12月定例議会は、12日・13日に開催され、町長提出の報告2件、条例改正・補正予算等10件、議員提出の意見書2件を可決。

一般質問は全議員が町政の当面する課題に活発な議論を展開した。



国の施策に憤りを感じる

答 不満を持っている

問

藤原陽三

今、国の地方や弱者切り捨ての政策に対し国民の怒りはすさまじく、先の参議院選挙にも表れた。また税制調査会が消費税アップを打ち出し、世論の非難をあびている。

天下り先にばらまく補助金や定率減税の廃止に言及し「消費税を上げる前に無駄を削るべきだ」などの反論が続出している。かつて、労働時間の短縮にもみられた国の画一的な施策で、一律に公共事業が抑制され、建設業者には死活問題になっている。

また規制緩和により、小さな商工業者は今まさに風前の灯火になり、お

互いの絆やふれあいの場が消えようとしている。共に痛みを分かち合うと言いつつ、弱者や地方に押し付ける施策に強い憤りを感じる。首長の見解を聞く。

答

町長

三位一体改革に見られるように地方と都市の格差が広がっている。公共事業の抑制で、地方は非常に困惑し本町でも、建設業だけでなく、商業面、農林業面へも影響がある。

町内の商工業者は、自力では生活にくい状況で、労働者が職を失い、商業へも大きく波及している。町内の主な中心地、大崎、池川、森を見ても後継者が少なく、生活が

問

藤原

有終の美を

厳しくなった。政府の今までのやり方に対し大きな不満を持っている。

町長は昭和62年、村長に就任以来、地域の活性化に取り組んできたが今後の二年弱をどう対処するか。

新年度の予算編成を迎え、徹底した歳出削減を実施せざるを得ない状況の中、県が中山間対策として、地域の振興策を強化する意味で19年度当初予算より約2億円増額している。NPM等を積極的に活用して事業を行うべきではないか。

住民に夢と希望を与える意味でも、今までの経験と知識を最大限発揮し、幅広く仁淀川町の魅力を掘り起こし、内外にしろしめ有終の美を飾る施策を聞く。



賑やかな時もあった（11年吾川産業祭）

答

町 長

平成12年をピークに交付税が少なくなり、第一に行政改革を考えた。

18年3月に仁淀川町行政改革大綱が決定され、現在もその集中改革プランに沿って事業を実施している。

自主財源に乏しく、高齢化社会を迎え住民のニーズに応えるために一番大切なことは財政の健全化である。

恒常的に支出してきた町単独補助金、負担金、また借地料が非常に多

く、この見直しが欠かせない。このまま継続すると将来町の負担が大きくなり、問題を先送りすることなく、整理していかなければならない。

いろいろな情報を共有し解決策を見付け、議会にも協力を願う。

中山間対策は県も力を入れており、吸収していきたい。

※NPMⅡ民間の経営理念を取り入れ、効率的で質の高いサービスの提供を目指す。

カラタチ分収林への対応は



答 20年7月で契約期間が満了

問

坂本 伝一

平成二十年七月に契約満了と聞く、今後の対応は。

答

町 長

仁淀のカラタチ分収林

（五八・八九ha）は、加え入筆数一五七筆で、相続人関係者二五一人、二十年七月に契約期間が満了。

十九年五月に地権者や相続人を集め、意見交換を行った。地元からは、「二五一人全員の同意を得るのは大変難しい。」「伐採しても木材価格の低迷

や木材搬出などの経費が掛かりすぎ、利益が望めないのではあれば現状のまま」などの意見があった。今後、各方面の現状や実態把握をし、地元の意見を踏まえ、議会とも十分議論しながら対応する。



カラタチ分収林（谷山・中宮上部）



田村公園 利用価値がない

答 地域の要望だ

問

岡田良成

町の財政は苦しく、財政基金も二十三年度には底を尽くという。その厳しい時に、なぜ田村公園なのか。

答

町長

田村公園は、合併前から計画しており、地域の住民から公園、避難場所として要望もあり、さらに地域の農産物等の販売できる機能を兼ね備え、再来年度以降の整備実施を計画している。

問

岡田

財政の厳しい時に、所得向上につながるなら良いが、公園は利用価値がない。

答

町長

吾川村時代から計画し、吾川地域の振興を図る基金として積み立てたものであり、将来は地域活性化の一つの核になるよう進めている。総額

な予算はまだ立てていないが、土地取得の費用を計上した。



地域住民の要望で、ふれあいや避難目的に整備が進められる田村公園用地（約7,600㎡）

**作業道に
思い切った予算を**

問
岡田

町は90%が森林で、町予算の1%が七五〇〇万円。作業道に思い切った予算を付けるべきだ。

答
副町長

林業の効率的な経営を進めていきたい。ただ、林道、作業道が合計で五〇〇km以上整備されており、成果をあげることが大事。森の工場は大変厳しい財政だが、整備したいと強い思いを持っている。

問
岡田

不況で、生活が苦しいのが実態である。町内消費をするよう、建設業界も、町内で資材を購入するよう指導すべきだ。

答
副町長

町内で消費するよう、指導していきたい。

キノコ工場

問
岡田

(株)晃立は安居のキノコ工場を無償で貸すと聞いたが、対応すべきでは。

答
副町長

検討する。



キノコ工場（安居）

ふれあい広場の復活を

答
地域の自主性を尊重

問
岡田

雇用がなく、生活が苦しく、町民が生きているために力を貸してほしいとの声が聞こえる。農業、林業、商工業に対し、考えを問う。

答
副町長

九割を占める森林資源の活用は森林振興に直結すると共に、雇用拡大、環境保全の面からも不可欠な取り組みと考える。

森の工場は雇用の拡大につながるが、農業生産の基幹作物は、茶やトマトが挙げられ、現金収入につなげるには、生産、加工、販売までの一環した体制作りが急務である。

商工業の振興、町内外の交流人口の拡大や、町外に流出する金を、町内

で循環させるしくみを考えなければいけない。

問
岡田

フードプランの食材

は、約一億円の仕入れをしているが、町内の農業者と連携を取り、所得の上がる行政ができないか。

吾川ふれあい広場（土

答
副町長

曜開市）は、年間売り上げが約一二〇〇万円あったが、復活しては。

原材料は外部から仕入れている。地域内の連携を工夫していきたい。

ふれあい広場は、地域が自主性を持ち、行政が支援できれば一番良い。今後は互いに知恵を絞っていききたい。



14年開業時は1,000万円の売り上げがあった「ふれあい広場」（大崎）